短期予報解説資料　２０２６年１１月８日１５時４０分発表

気象庁

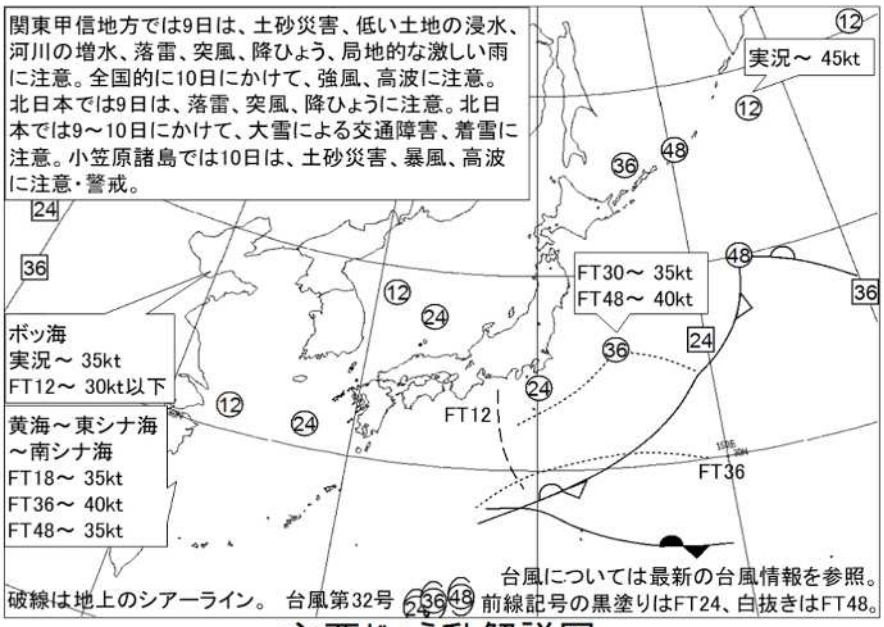
１．実況上の着目点

① 日本海では下層寒気の流れ込みによる筋状雲が広がり、北日本を中心に曇天域が広がる。

② 大陸の高気圧が日本付近に張り出して東～西日本では広い範囲で晴れている。

③ 500hPa 5160m以下で-36℃以下の寒気を伴う寒冷渦周辺の正渦度極大域に対応した低気圧がオホーツク海を西進。②の高気圧との間で気圧の傾きが急となり、北海道地方では15m/s前後の風を観測し、北日本沿岸では3m以上の波高を観測。

④ 強い勢力の台風第32号が、日本の南を西進。



主要じょう乱解説図

２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 日本海では8日夜までに低気圧が発生し9日朝にかけて南東へ進み、その後、若狭湾付近で不明瞭化する。8日夜までに東シナ海で低気圧が発生し9日朝にかけて九州西方海上へ進み、その後、不明瞭化する。9日朝までに日本の東で高気圧が発生し、9日夜にかけて日本のはるか東へ移動する。9日朝までに伊豆諸島付近で低気圧が発生し、9日夜までに前線を伴い、低気圧は10日にかけて日本のはるか東へ進む。10日は日本付近で一時的に西高東低の気圧配置となる。日本の東の高気圧の縁辺から伊豆諸島付近の前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。関東甲信地方では9日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、突風、降ひょう、局地的な激しい雨に注意。1項④の台風は、9日朝にかけて日本の南を北西寄りに進む。その後、台風は進路を東寄りに変えて10日夜にかけて小笠原近海へ進む。大陸の高気圧の張り出しと低気圧の間で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、台風第32号を波源とするうねりの影響も加わり、しける所や波が高くなる所がある。全国的に10日にかけて、強風、高波に注意。500hPa 5220m以下で-42℃以下の寒気を伴う寒冷渦が10日にかけて、シベリアから北海道付近を通り千島近海へ進み、北日本では大気の状態が不安定となり、降雪が強まる。北日本では9日は、落雷、突風、降ひょうに注意。北日本では9～10日にかけて、大雪による交通障害、着雪に注意。

② 10日は、2項①の台風第32号が小笠原諸島に接近するおそれがある。小笠原諸島では10日は、土砂災害、暴風、高波に注意・警戒。

３．数値予報資料解釈上の留意点　総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

４．防災関連事項［量的予報等］　① 雨量(18 時からの 24 時間)：多い所(100㎜ 以上)はない。②波浪(明日まで)：北海道 5、沖縄 4、東北・関東・伊豆諸島・北陸・近畿・中国・九州北部 3m。

５．全般気象解説情報発表の有無　発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。